

シリーズ調査「われら信州人」^{①⑥}
「郷土・地域意識編」

第4回調査

報告書

(2013年5月調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	5



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

＜シリーズ調査「われら信州人」のテーマ＞

	I	II	III
郷土・地域意識編	第1回 1994年11月調査	第6回 2000年8月調査	第11回 2008年3月調査
	・住みやすさ	・住みやすさ	・住みやすさ
	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し	・長野県の将来の見通し
	・愛着感	・愛着感	・愛着感
	・住み続けたいか	・住み続けたいか	・住み続けたいか
	・県民として誇れるもの、自慢できるもの	・他県と比べて平均以上と思えること	・地域との関わり
	・長野県民の気質	・長野県民の気質・人生観	・長野県民の気質・人生観
		・自分の人生で長野県に住みたい時期	・自分の人生で長野県に住みたい時期
生活編	第2回 1995年11・12月調査	第7回 2002年5・6月調査	第12回 2009年5月調査
	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度	・現在の生活の満足度
	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方	・自由な時間の過ごし方
	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み	・普段感じている不安や悩み
	・隣近所との交際状況	・隣近所との交際状況	・衣・食のこだわり
	・今関心を寄せているもの	・お祈りや信心	・お祈りや信心
	・食生活において気をつかうこと	・食生活において気をつかうこと	・日ごろ充実感を覚えるもの
	・作っている自家製の漬物	・「食」への関心、こだわり	・日本社会の格差
自然と環境編	第3回 1997年3月調査	第8回 2004年4月調査	第13回 2010年4月調査
	・信州の自然について	・季節の好き嫌い	・季節の好き嫌い
	・自然と人間の関係	・自然とのふれあい体験、野外活動	・郷土の表現
	・信州の自然は守られているか	・ダム、リゾート開発の是非	・自然とのふれあい体験、野外活動
	・信州の自然景観について	・近隣からの環境被害	・ダム、リゾート開発の是非
	・10年前と比べてどうか	・自然・生活環境で心配なこと	・身近な機関へ移動の手段
	・美観を損ねるもの	・省エネルギーの心がけ	・日ごろの省エネ、エコ商品の購入
	・環境保全のために日頃心がけていること	・自然・環境破壊をくいとめるものは何	・環境税の導入
家族編	第4回 1997年12月調査	第9回 2005年10月調査	第14回 2011年5月調査
	・家族と話をする頻度	・家族と話をする頻度	・家族と話をする頻度
	・結婚観	・結婚観	・結婚観
	・家庭の役割	・家族・家庭の役割	・家族・家庭の役割
	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰	・主導権を握るのは誰
	・家庭生活に必要なもの	・老後の親と子	・老後の親と子
	・子供に期待すること	・家庭の周辺 10年後は？	・家庭の周辺 10年後は？
	・望ましい家庭生活	・子育て環境	・子育て環境
教育編	第5回 1999年3月調査	第10回 2006年10月調査	第15回 2012年4月調査
	・子供への接し方	・子供への接し方	・「長野県は教育県」と思うか
	・一芸、推薦入学の是非	・一芸、推薦入学の是非	・AO入試、推薦入試
	・習い事について	・習い事について	・習い事について
	・「長野県は教育県」と思うか	・教育と人生観	・教育と人生観
	・学校の完全週五日制について	・長野県の進学環境	・国立大学の授業料無償化
	・期待する小学校の先生の資質	・学校活動への参加	・東大の秋入学移行
	・いじめにあった子供の相談相手は	・望ましい義務教育のあり方	・望ましい義務教育のあり方
教育編	・学歴の受けとめ	・自分は教育熱心か	・自分は教育熱心か
	・中・高一貫教育への期待度	・中・高一貫教育への期待度	・長野県の大学教育
	・日本の教育の全体的な方向	・日本の教育の全体的な方向	・子どもに受けさせたい教育
	・学習塾の必要性	・学習塾に通わせているか	・いじめ・不登校、相談相手
			・教育資金
			・日本の教育の全体的な方向

I 調査の設計

◆ 調査の目的

「われら信州人」調査は、長野県民の「郷土・地域意識」「生活」「自然と環境」「家族」「教育」の5テーマについて、1994年からほぼ1年に1回のペースで実施している。通算16回目を数え、今回の郷土・地域意識編調査は1994年、2000年、2008年に引き続き4回目となる。

北陸新幹線が来年春に金沢まで延伸するほか、リニア中央新幹線が2027年開業を目指し来年度着工する予定で、県内の高速交通網整備は新たな段階に入る。一方、自民党が政権に復帰して1年あまり経過したものの道州制導入に関する議論は進んでおらず、地域の枠組みがどう変化していくのか、将来像は見えてこない。

今回調査では、居住地域や県の現状をどのようにとらえ、また今後の見通しをどう考えているのか、過去3回調査からの推移を含め考察する。

本シリーズ調査は1999年のみ郵送、ほかの15回は面接で行っている。

調査の全般にわたり、飽戸弘・東京大学名誉教授と、坂井博通・埼玉県立大学教授の監修を初回から仰いでいる。

◆ 調査の設計

- ▽調査対象 長野県内に住む20歳以上の男女800人
- ▽抽出方法 層化三段無作為抽出法。対象の各市町村の選挙人名簿から抽出
- ▽調査時期 2013年5月1日～12日
- ▽調査方法 個別面接聞き取り
- ▽調査地点 19市6町6村の計45地点
(1地点20人が35地点 1地点10人が10地点)

◆ 回収結果

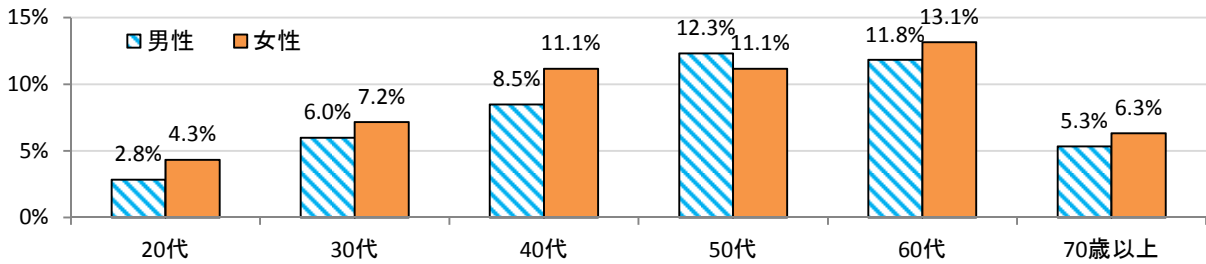
- ▽有効回答 601人(回収率75.1%) 男性281人 女性320人

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。
見出し、文中は原則として小数点第1位を四捨五入して表記した。

回収サンプルの内訳

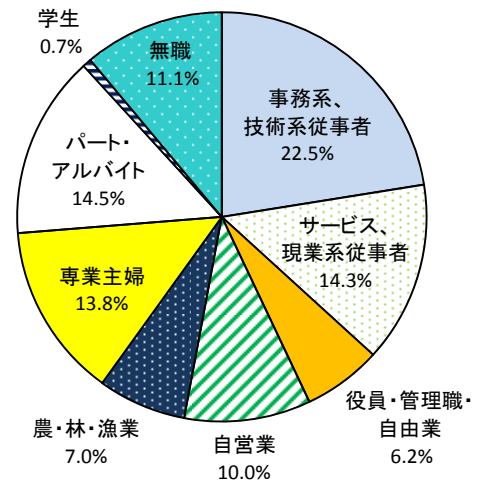
【性別と年代】

	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
合計	601	43	79	118	141	150	70
	100.0%	7.2%	13.1%	19.6%	23.5%	25.0%	11.6%
男性	281	17	36	51	74	71	32
	46.8%	2.8%	6.0%	8.5%	12.3%	11.8%	5.3%
女性	320	26	43	67	67	79	38
	53.2%	4.3%	7.2%	11.1%	11.1%	13.1%	6.3%



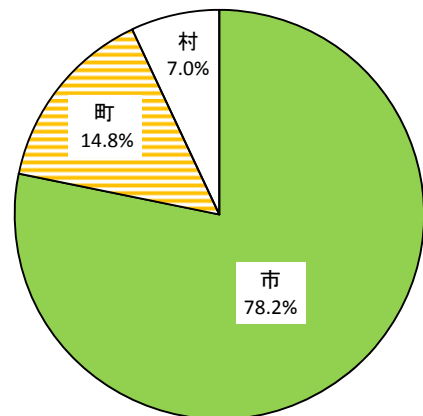
【職業】

事務系、技術系従事者	135	22.5%
サービス、現業系従事者	86	14.3%
役員・管理職・自由業	37	6.2%
自営業	60	10.0%
農・林・漁業	42	7.0%
専業主婦	83	13.8%
パート・アルバイト	87	14.5%
学生	4	0.7%
無職	67	11.1%



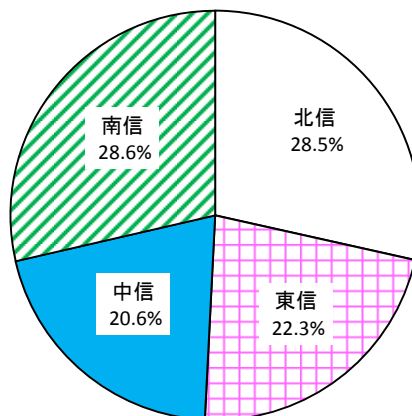
【市町村】

市	470	78.2%
町	89	14.8%
村	42	7.0%



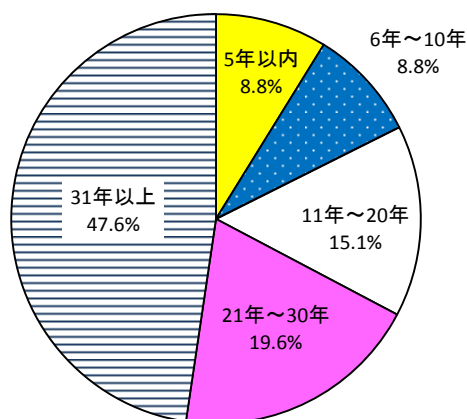
【地域】

北信	171	28.5%
東信	134	22.3%
中信	124	20.6%
南信	172	28.6%



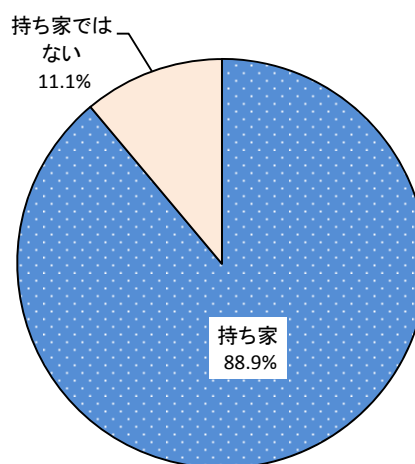
【居住年数】

5年以内	53	8.8%
6年～10年	53	8.8%
11年～20年	91	15.1%
21年～30年	118	19.6%
31年以上	286	47.6%



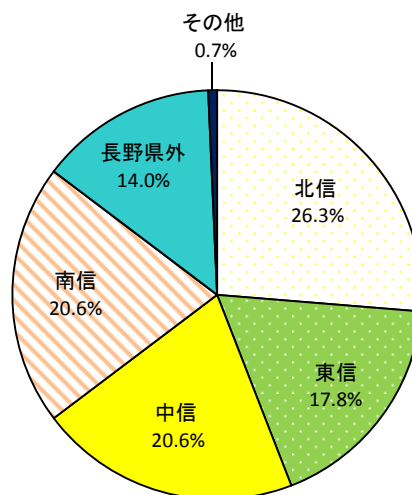
【住居】

持ち家	534	88.9%
持ち家ではない	67	11.1%



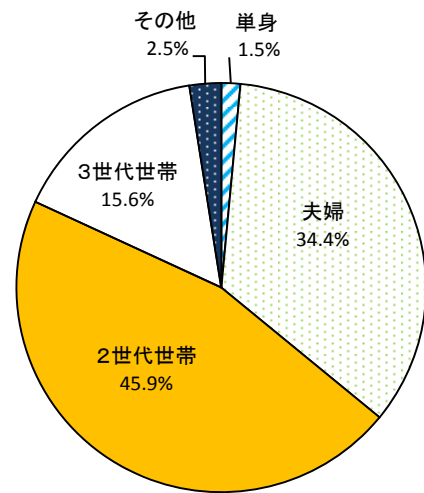
【出身地】

北信	158	26.3%
東信	107	17.8%
中信	124	20.6%
南信	124	20.6%
長野県外	84	14.0%
その他	4	0.7%



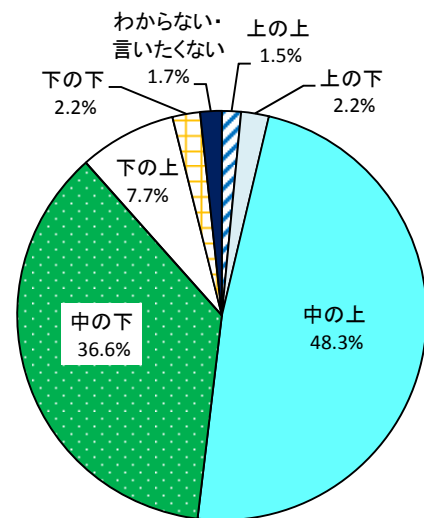
【家族構成】

単身	9	1.5%
夫婦	207	34.4%
2世代世帯	276	45.9%
3世代世帯	94	15.6%
その他	15	2.5%



【暮らし向き】

上の上	9	1.5%
上の下	13	2.2%
中の上	290	48.3%
中の下	220	36.6%
下の上	46	7.7%
下の下	13	2.2%
わからない・言いたくない	10	1.7%



II 結果の概要

郷土の「いま」への思い

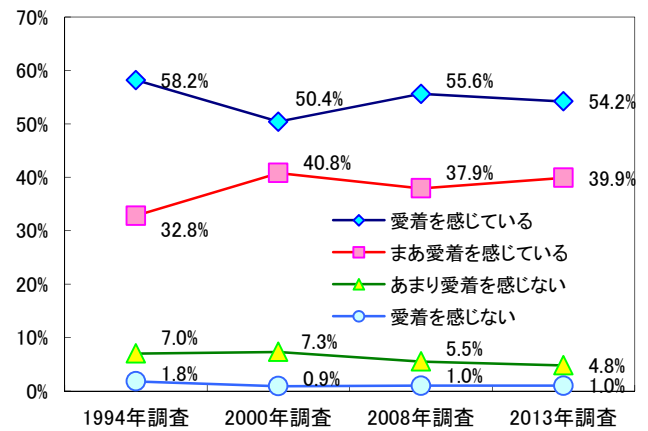
居住地への愛着度

「愛着を感じている」全体で 94%

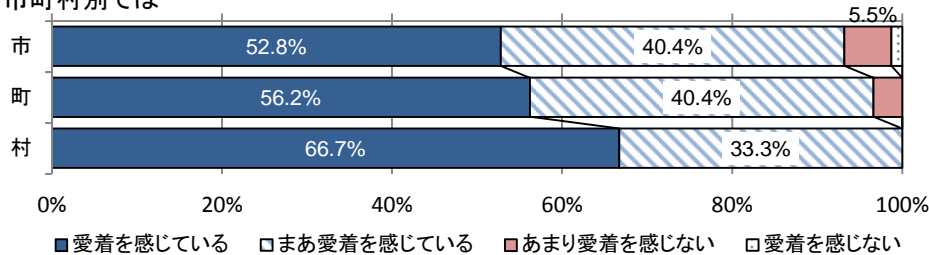
「愛着を感じている」が 2008 年調査と同水準の 54%。「まあ愛着を感じている」の 40%と合わせて 9 割以上が居住地に愛着を持っていると答えた。「愛着を感じない」は全体で 6%で、1994 年の初回調査からやや減少している。

20 代と 60 代、70 歳以上で「愛着を感じている」が 6 割以上と高いが 30 代と 50 代では半数を割り込む。

他に愛着度が高かったのは農・林・漁業(67%)、自営業(63%)、村部居住(67%)、居住年数 31 年以上(64%)、暮らし向き「中の上」(63%)。また今の生活に「とても満足している」層は愛着度が 7 割を超す。



◆市町村別では

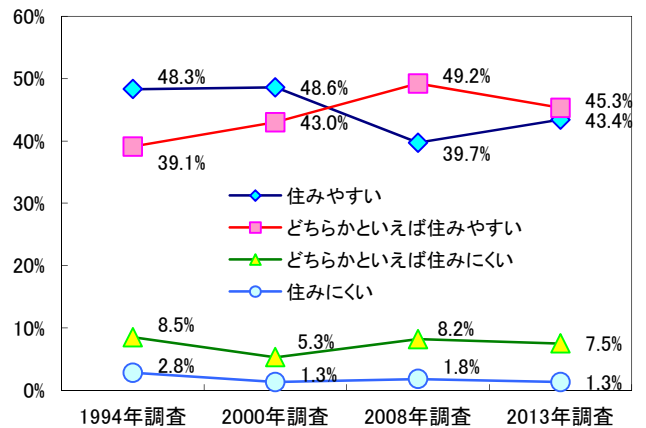


住みやすさ

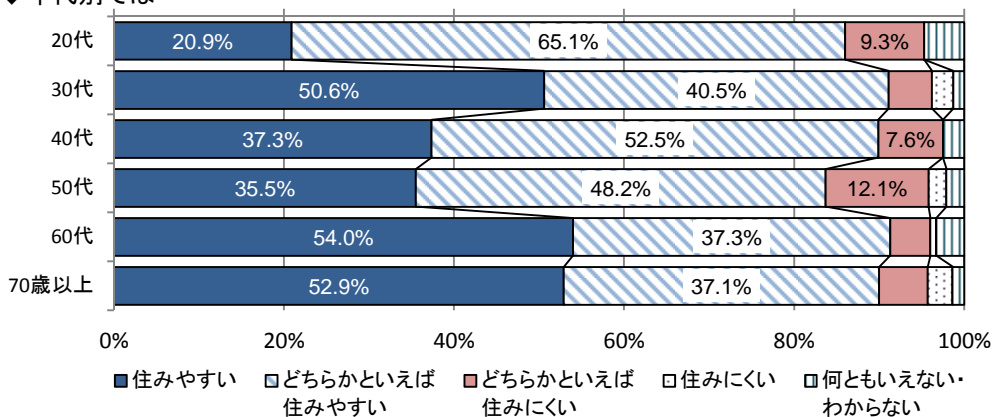
「住みやすい」やや上昇

「住みやすい」が 2008 年調査から 4 ポイント増えて 43%、「どちらかといえば住みやすい」が 4 ポイント減の 45%だった。

30 代と 60 代以上、専業主婦、生活にとっても満足している層で「住みやすい」が半数を超える。一方、50 代、サービス、現業系従事者、3 世代世帯で「住みにくい」が全体で 14%と高め。



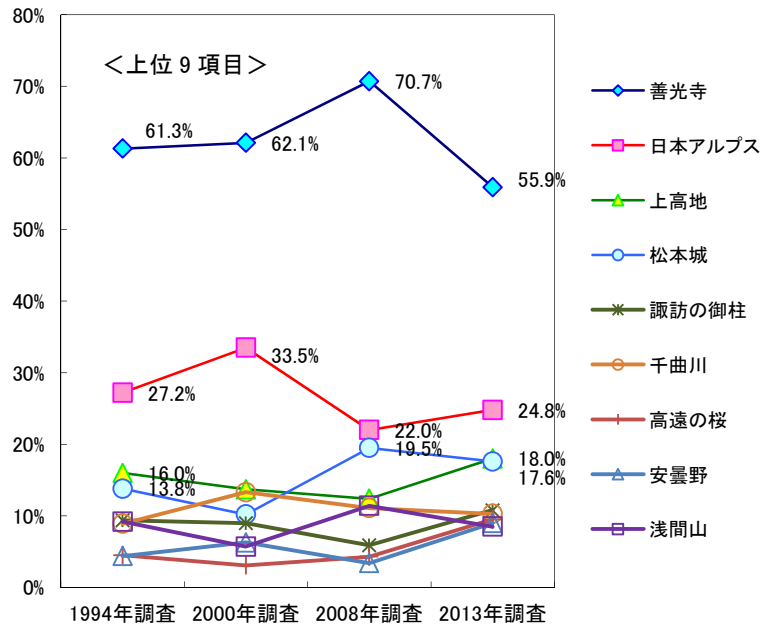
◆年代別では



長野県のシンボルと思うものを2つ以内で聞いたところ、「善光寺」が56%でトップ。2番手の「日本アルプス」(25%)に31ポイントの大差をつけた。3番手には「上高地」、4番手に「松本城」18ポイントで入った。

「善光寺」は2008年調査から15ポイント減少。他の項目も多少の増減があるが大きな変動はみられない。

地域別では北信で「善光寺」が76%と高く、東信では「浅間山」が31%で2番手に入る。中信では「松本城」が43%でトップ。他の3地域で1位の「善光寺」は3位(32%)にとどまり、「日本アルプス」(33%)、「上高地」(31%)、「安曇野」(28%)が高め。南信では「諏訪の御柱」(23%)、「高遠の桜」(19%)が目立つ。



◆地域別ベスト10

<北信>		<東信>		<中信>		<南信>	
善光寺	76.0%	善光寺	62.7%	松本城	42.7%	善光寺	48.3%
日本アルプス	25.1%	浅間山	31.3%	日本アルプス	33.1%	日本アルプス	28.5%
千曲川	20.5%	千曲川	20.1%	善光寺	31.5%	諏訪の御柱	23.3%
上高地	15.8%	上高地	12.7%	上高地	30.6%	高遠の桜	19.2%
志賀高原	12.3%	日本アルプス	11.9%	安曇野	28.2%	上高地	15.1%
松本城	12.3%	八ヶ岳連峰	10.4%	高遠の桜	7.3%	諏訪大社	11.0%
諏訪の御柱	6.4%	松本城	9.7%	諏訪の御柱	6.5%	松本城	11.0%
高遠の桜	5.8%	美ヶ原高原	7.5%	サイトウ・キネンフェスティバル	5.6%	諏訪湖	9.9%
千曲市のアンズ	4.1%	諏訪湖	5.2%	御岳山	4.0%	八ヶ岳連峰	8.7%
安曇野	2.9%	安曇野	5.2%	美ヶ原高原	3.2%	天竜川	7.6%

今回は選択肢を善光寺から始まるもの(Aパターン)と、逆に上高地から始まるもの(Bパターン)の2種類を用意して、対象者に半々ずつ聞いた。その結果各上位10は表の通り、善光寺は最初に置いた場合が63%、最後に置いた場合は49%とトップは変わらないものの14ポイントの差があった。上位項目は大きく変わらないが、Aパターンは善光寺に集中、Bパターンは上高地が高くなるなど順位に微妙な違いがあった。

(選択肢は54ページの問11参照)

Aパターン(回答者数297人)

善光寺	186	62.6%
日本アルプス	81	27.3%
松本城	48	16.2%
上高地	43	14.5%
千曲川	29	9.8%
諏訪の御柱	28	9.4%
高遠の桜	25	8.4%
浅間山	24	8.1%
安曇野	24	8.1%
諏訪大社	17	5.7%
諏訪湖	17	5.7%

Bパターン(回答者数304人)

善光寺	150	49.3%
日本アルプス	68	22.4%
上高地	65	21.4%
松本城	58	19.1%
諏訪の御柱	37	12.2%
千曲川	33	10.9%
高遠の桜	32	10.5%
安曇野	30	9.9%
浅間山	27	8.9%
八ヶ岳連峰	19	6.3%

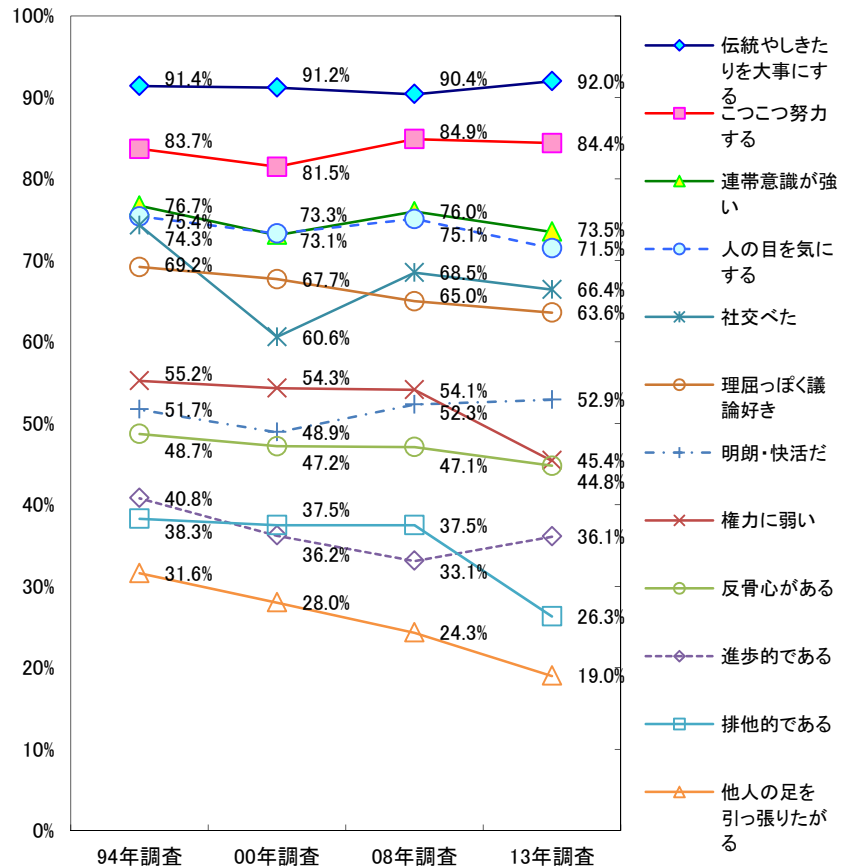
長野県民の資質についてどう思うか、12項目を「はい」「いいえ」で聞いた。

「はい」が最も多かったのは「伝統やしきたりを大事にする」の92%で、2番手に「こつこつ努力する」が84%、3番手に「連帯意識が強い」が74%で入り、以下「人の目を気にする」(72%)、「社交べた」(66%)、「理屈っぽく議論好き」(64%)と続く。

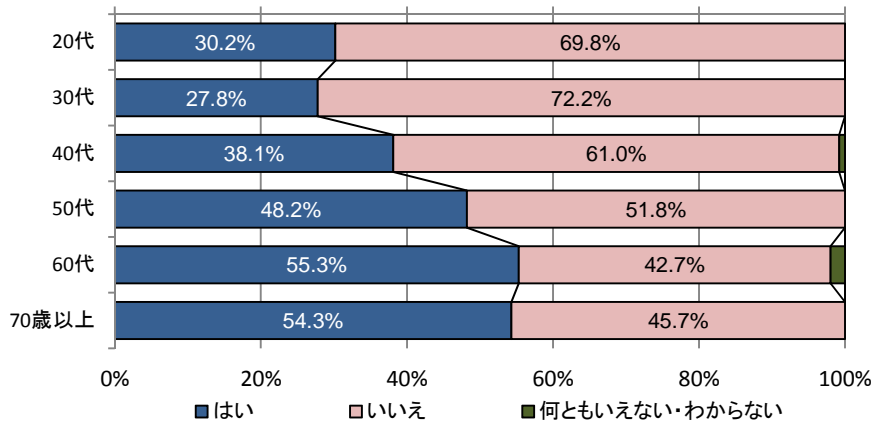
2008年調査と比べて上位に変動はみられないが、下位の項目では「権力に弱い」(45%)が9ポイント、「排他的である」(26%)が11ポイント減少してそれぞれ順位を一つ下げている。

「反骨心がある」は高年層は認めているが、若年層は否定的だ。

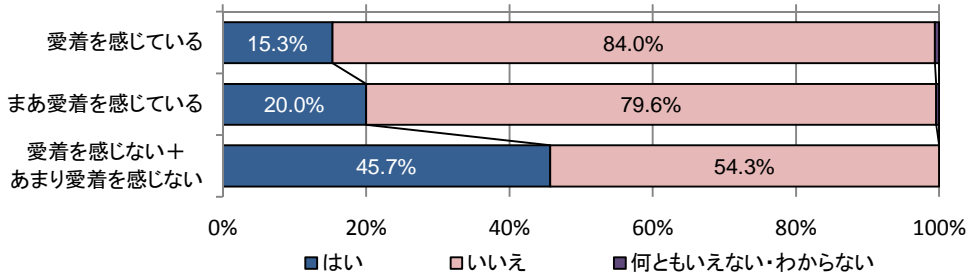
◆「はい」の推移



◆反骨心がある～年代別では



◆他人の足を引っ張りたがる～居住地の愛着度との関連では



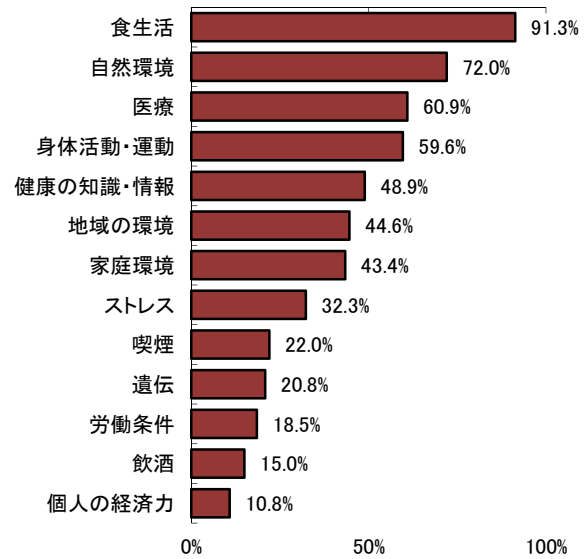
長寿に強く影響すると思うもの

「食生活」9割超

長寿に「とても強く影響する」と思うものを複数回答で尋ねた。トップはほとんどの対象者が挙げた「食生活」で91%、2番手には「自然環境」の72%、3番手は「医療」の61%。

役員・管理職・自由業で「自然環境」84%、「地域の環境」57%と環境面を重視する一方、「個人の経済力」が19%と高いのが目立つ。

埼玉県立大学と共同の「健康とライフスタイルに関する国際比較研究」（2012年）で松本市民を対象に「人の寿命にとっても強く影響すると思うものはどれですか」と聞いた郵送調査の上位5項目は、「食生活」92%、「ストレス」81%、「身体活動・運動」64%、「喫煙」60%、「遺伝」48%。質問、調査方法が違うものの、今回調査で上位の「自然環境」は34%、「健康の知識・情報」は23%にとどまる。

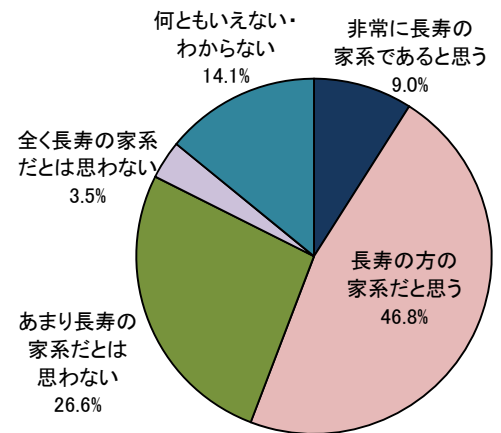


長寿の家系か

「長寿の家系と思う」56%

自分の家系が長寿の家系かどうか聞いたところ、「非常に長寿の家系であると思う」が9%、「長寿の方の家系であると思う」が47%で、全体では半数超の56%が長寿の家系と答えた。

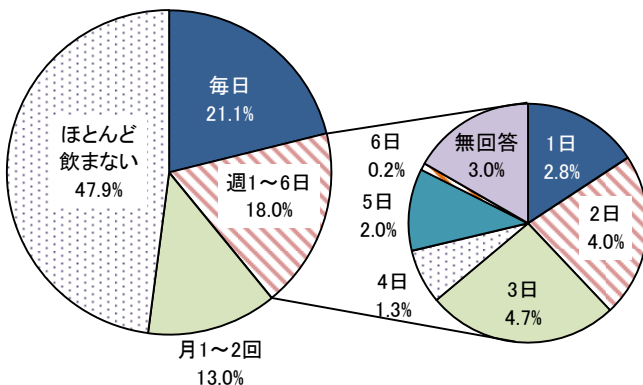
60代・70歳以上で「非常に長寿の家系」が15%前後と高め。



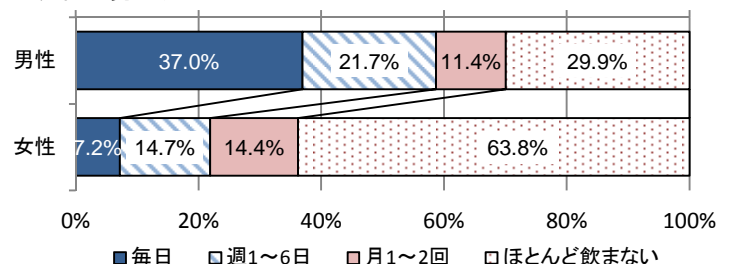
健康とライフスタイル

◆飲酒 女性で「ほとんど飲まない」64%

飲酒の頻度で「毎日」飲んでいると答えたのは21%。男性が37%と高く、女性は7%。「週1～6日」は18%で、その中で最多は「週3日」の5%。「月1～2回」は13%、「ほとんど飲まない」は半数弱の48%だが、男性30%に対し女性64%と男女差が大きい。



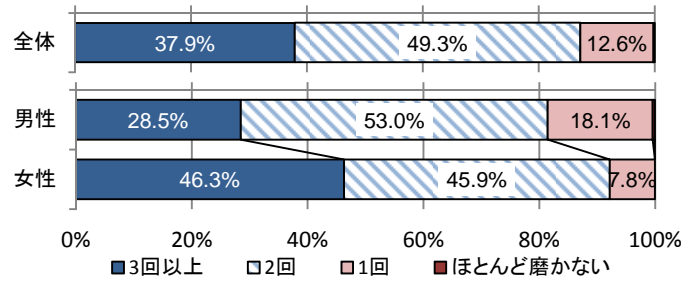
◆飲酒～男女別では



◆歯磨き「3回以上」女性が高め

歯磨きの回数は「2回」が約半数の49%で、「3回以上」は38%、「1回」は13%。属性別では「3回以上」は女性、30代、専業主婦、パート・アルバイト層で高め。

◆男女別では

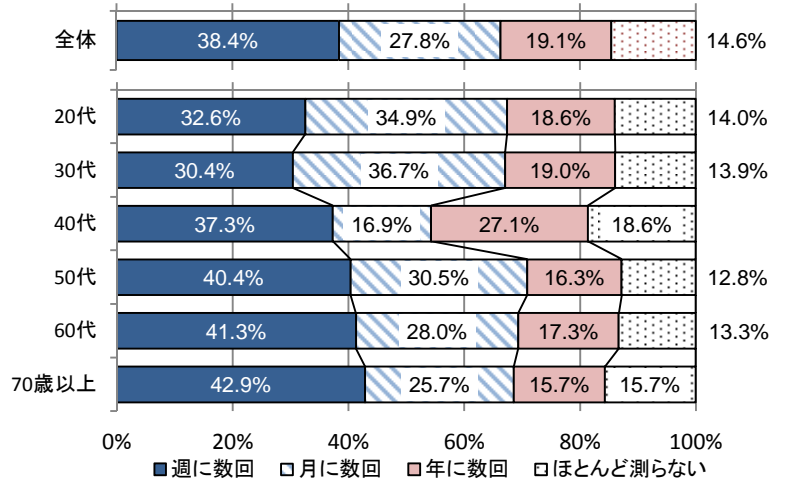


◆体重測定「週に数回」町部で46%

体重測定の頻度で最も多かったのは「週に数回」の38%。「月に数回」は28%、「年に数回」は19%で、「ほとんど測らない」は15%。40代で「年に数回」(27%)「ほとんど測らない」(19%)ともに高め。

女性と50代~70歳以上は「週に数回」が4割を超える。

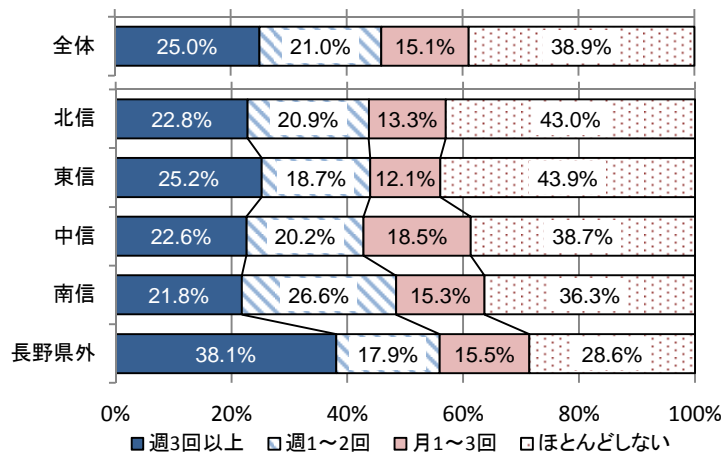
◆年代別では



◆30分以上の運動 30~40代で「ほとんどしない」半数超

30分以上の運動をどのくらい行っているか聞いたところ「ほとんどしない」が39%で「週3回以上」は25%、「週1~2回」は21%、「月1~3回」は15%だった。60代~70歳以上の高齢層で「週3回以上」が高い一方、30~40代では「ほとんどしない」が50%を超えている。北信・東信出身者で「ほとんどしない」が43%台と高く、県外出身者は「週3回以上」が38%とよく運動をしている。

◆出身地域別では



◆年代別では

